

おめでとうございます

SNFシニアネット福岡 は **創立 20 周年**

2月17日福岡市内のホテルを会場に創立のお祝い



↑SNF会長 手柴正義氏、
↓ゲスト森戸祐一氏の講演
演題は「人生100年時代の社
会との関係性の作り方」

創立20周年記念交流会があり、SNKから4名の理事が参加しました。約80名のメンバーおよび賛助会員の参加で会場は賑わい盛況でした。

SNFはSNKと同じ年（1998年）に発足しましたので兄弟のような存在で、今日まで様々な分野で交流がありました。中でも博多どんたくに参加のお誘いがあり、一緒に行列に参加したことは忘れられない思い出です。

SNFも発足後20年を経過し、SNKと似た課題を抱えているようにしたので、先方の理事の方々と情報交換をしました。

課題として①会員数の減少②会員の高齢化③パソコン講座の縮小…などSNKと共通するところがたくさんあることが分かりました。



SNFの会員数は現在約300名で一時400名を超えていたことを考えるとSNKと似たような経緯をたどっていることが判ります。つい最近はやや持ち直しているよう話を聞きました。それは福岡市の広報誌である「市政だより」にSNFのパソコン講座を紹介できるようになったことが大きいという話でした。

SNKも「広報久留米」に「初めてのパソコン講座募集」を載せていますが、記事のスペース、内容、がだいぶ違うようです。また福岡市の「名義後援」を得ているので折にふれて市の応援をもらっているようです。SNKも今後久留米市との連携を密にする方策を考える必要があることを痛感しました。新市長の誕生を機に検討が必要です。

SNFの会員構成は男女比が女性6割であり我々SNKとは逆です。新入会員も女性が多いようで、考えよう、このあたりにも会員獲得作戦のヒントがありそうです。 理事長 金子忠次



開会に先立ちSNK理事長の挨拶、後方はSNF理事長

(あとがき)三寒四温を繰り返しながら例年の通り冬から春へ、季節は間違いなく変わり目。そんな日、SNKの本部在り所である下宮社の府中公民館2室を借りて、久留米北第2地域包括センターによる「御井町校区の皆さん、お茶を飲みながら楽しいひと時を過ごしましょう」と呼びかける認知症予防の時間が持たれた。日頃、厄介をかけると室内に閉じこもりがちなる老人たちが、誘いに集まり、気鬱になりがちの心を開いて皆で元気な話に興じた。鬱になりそうな気持ちを振り払い元気な笑いを上げた。介護事業所や介護グッズの業者を加え、介護一般に関心をもつ人や地域の人々は、認知症予防の効果を期待していた。笑顔になる顔を数えながら、集まった人たちが今日を楽しみこの集まりを待ち望むこととなれば良い、と胸をなでおろしている。高齢者を元気にする政策が地域に根を下ろすこと、社会全体が健康志向へと舵取り、認知症予防を目的に外へ出る元気な老人が増える。地域が笑いに包まれてくる。実験的なモノだが盛況な中で開催されたこの日を、喜びたい。(武)



編集・発行
NPO シニアネット久留米
理事長 金子忠次
久留米市御井町 387
TEL 0942-65-4545

ボランティアフェスティバル 副理事長 青木正伸

第39回久留米市ボランティアフェスティバル」参加を決めた直後に、我がチームの腕達者を集めて会議を行った。昨年は「焼きそば」を今年も同じメニューで行くこととした。早速「焼きそばづくり」実行委員会を立ち上げた。

昨年度の参加経験をもとに、1月22日（月）第一回の試作会を実施するも、キャベツは低温の影響で入手困難だという。だがそんな中で試作するもののやはり「キャベツ」は欲しい！…との意見が多数あり。知り合いの農家へ相談したところ「市場には出されん品だけん、好きなだけとってよかよ！」…オーバーなモノ言いたが、これぞ天の助け！と思い30個のキャベツを頂いた。

2月26日（月）、第二回目の実行委員会では当日発生する参加者の隋い食、材料の吟味など、昨年経験したいろいろの雑事を思い出しながら、前準備の打ち合わせを行う。そして、本番の前日10日には、SNK本部（府中公民館）にて焼きそば材料の仕込み。焼きそばづくり用鉄板等の搬送、諸雑用を行った。

フェスティバル当日11日（日）会場の久留米シティプラザ「六角堂広場」へ早々にご出勤、そして消防署の安全チェックなど受け、それも無事に終わり午前10時には「着火OK」となる！

大会当日、試作通りの順番で焼きそばづくりは進み、焼きそば特有の香りが会場へ漂い始めた。その香りに誘われたように早くも6～8人の列ができる。会場全体が騒々しく徐々に喧噪を帯び始める。頃合いを見ては、大声で「出来立ての美味しい焼きそばは如何ですか？」の声も弾む。13時前には、予定した184食分の焼きそばづくりは終了する。

久留米シティプラザ「六角堂広場」で1日遊んで疲れて帰るころは爽やかな青空でした。



大忙しの焼きそばづくりを担当した仲間には特に感謝、感謝！ 準備不足、確認不足によるお粗末もあり近くの店へ買い出しに出かける。本日のSNK参加者は人員（女性：6名 男性：9名）、次回への反省点も多かった1日でした。

特 集 よって御井！話して御井！ 元気な話しをしよう

参加して思うくこれからの認知症予防カフェの在り方とは>

未だ寒さの残る3月7日、SNKを「会場」にして「～出てこんね。介護の話しよう♪、ふれあい広場～」が、北第2包括支援センターの主導で開催された。主催事業所は、北第2包括、介護施設(グループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所)や、福祉用具事業所の展示、SNKなどの協力で、予定の人数を超える賑わいだっただ。飲み物のお接待、お喋りが主で、特別のプログラムは用意されていないが、和やかな雰囲気での2時間であった。また、次も参加したいという声も聞かれた。参加費は無料とある。(これは、正に、認知症予防カフェだと、直感しました)

いま、人口減と、超高齢化の下で、持続可能な社会保障制度を確立すべき正念場になっている。大きなテーマは、2つあると言われている。

1つ、「人生は、100年時代」を見据えた医療・介護体制改革。もう1つは、高齢者中心の給付から、現役世代も含めて支える「全世代型」への転換である。そんな中で、毎年増え続ける「認知症」と言う病気(毎年5%増が、推定されている)の、予防啓発から、認知症になっても、安心・安全なまちづくりも、問われている。現在でも、行政からの財源は、もう、これ以上、期待できない状態なのです。

まちの主役である住民が、認知症と言う病気の基礎的な理解を学習し深めて、街中に、認知症の人が住んでいても、お互いさまの雰囲気で助け合う「まちづくり」が急務であり、何としても、期待されているのです。

街中の自助・互助制度の仕組みづくりをスピードアップして、完成させ、超高齢化時代の避けて通れない「社会問題;認知症対応策」を、もっと急ぐ必要があります。

本日の「ふれあい広場」開催は、まさに具体的な対策の一環と思われます。関係先が連携して、先ず、春夏秋冬の季節ごとに年4回開催できたら、有難いと思う次第です。実施に当たれば色々な難しい課題もあるでしょう、が一つ一つ片付けながら進めたいものです。 SNK 理事 江上憲一



ふれあい広場に集まった人たち、主役も脇役もない、あるのはお互いの健康を気遣う人間の意思と尊敬でした。



会社案内
(有)カネダイ
福岡県朝倉郡東峰村宝珠山7
フリーダイヤル: 0120-303039
フリーFax: 0120-320-820

手づくりみそ 材料セット
おみその学校

MORIMITSU 株式会社 森光商店
Grain, Food, Petlife Div
お客様の「価値」を創る商店へ
『価値創造商店』
本店 佐賀県鳥栖市藤木町若桜 9-7
Tel: 0942-85-1125 Fax: 82-9780

シニアネット久留米は、安心安全に暮らせる街づくりを目指します。

日本の平均寿命は男性 80,8 歳、女性 87,1 歳(2016 年)である。医学の進歩と健康志向で寿命は延び 100 歳まで生きるのは指呼の間にある。世界の長寿国日本の社会が変わる。根本的な生き方改革へと社会は変わっていくはずである。人生 70 年から 100 年の時代へシフトした社会、生涯を通して余裕のある市民総支え合いの社会へ。世界に先駆けて日本は、超高齢化社会が思った以上に早く駆け足でやってくる。